

# 第6期通常総会議案書

日時： 平成21年6月20日（土） 午後2時半～3時半

場所： 大津町中央公民館 中会議室

## 議題

第一号議案 平成20年度事業報告並びに決算報告承認の件

第二号議案 平成21年度事業計画及び収支予算案決定の件

第三号議案 借入金最高限度額決定の件

特定非営利活動法人 九州バイオマスフォーラム

## 第一号議案 平成20年度事業報告並びに決算報告承認の件

### 1. はじめに

- (一) 昨年6月7日に開催された第5期通常総会では、平成20年度の事業計画を決定するにあたり、骨子以下の様な状況認識を確認しました。
- (1) 活動がどちらかと言えば技術的、専門的な部分に偏り、「循環型地域社会の創造」へ向けた社会的な運動及び活動の拡がりづくりという意味では非常に立ち遅れているともいえ、そうしたことも関連してKBFの組織基盤の広がりや作れずにきています。
  - (2) 現状では、非営利活動を支えるための収益事業が確立していないため、NPO法人の経営基盤を支える自主事業を確立していくことが必要です。
- (二) 又、上記を踏まえ、第5期通常総会で、以下の内容での活動方針と事業計画を決定頂きました。

#### 〈平成20年度の活動方針〉

- (1) 九州内でバイオマスに対する理解・関心を高めるための普及啓発活動を実施する。
- (2) 阿蘇市で実施している草本系バイオマス利活用システムの2年後の事業化を見据えた調査・研究開発を進めていく。
- (3) 会員の拡大と補助金にできるだけ依存しない自主事業の確立をめざす。

#### 〈平成20年度の実業計画〉

- (1) 特定非営利活動に係る事業 (H20年4月1日～H21年3月31日)

定款の事業名	事業内容	実施日時
広報・啓発事業	(1) 会報の定期発行 200通×4回	年4回
	(2) ホームページのリニューアル	随時
	(3) セミナー・シンポジウムの開催 (農水省環境バイオマス総合対策事業)	15回
	(4) バイオマスキャラバンの実施 (農水省環境バイオマス総合対策事業)	15回
	(5) 草原の草から紙を作るプロジェクト (地球環境基金)	7回
	(6) 視察・見学会の受け入れ	随時
バイオマス利用地域モデル推進事業	(1) 草本系バイオマス利活用システム	年間
	(2) ストローベイルハウス建設事業	4月～9月
	(3) 九州内35市町村のバイオマス賦存量調査 (農水省環境バイオマス総合対策事業)	7月～2月
	(4) 野草資源小委員会事務局運営	年4回
交流事業及びバイオマス関連製品普及促進事業	(1) 各種イベント・セミナー等への講師の派遣	年5回

(2) その他の事業 (H20年4月1日～H21年3月31日)

定款の事業名	事業内容	実施日時
バイオマスに関連する書籍等の販売	(1) 書籍の販売	随時
バイオマス関連製品の販売	(2) 草の販売	随時

2. 第6期臨時総会開催

(一) 農水省環境バイオマス総合対策推進事業の事業不採択

第5期通常総会で平成20年度事業計画および収支予算案の承認後の6月17日に農水省環境バイオマス総合対策推進事業の事業不採択が決定しました。

これにより、平成20年度の収支予算のうち、3,000万円の収入が見込めなくなり、一部の事業実施が困難になりました。また、事業採択を見込んで既に事務局スタッフの増員といった体制強化を図っていたため、職員の給与カットを含むコスト削減や新規事業獲得など、事業計画および収支予算の大幅な見直しを余儀なくされました。

(二) 臨時総会の開催と平成20年度事業計画及び収支予算の変更

そこで、7月から10月にかけて、理事会・事務局でコスト削減計画や新規事業獲得に努め、事業計画や収支予算の見通しがたったところで、11月9日に臨時総会を開催することとなりました。

その結果、臨時総会で平成20年度事業計画および収支予算の変更案が承認され、事業計画及び収支予算は以下のとおりとなりました。

〈平成20年度の事業計画〉

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
広報・啓発事業	(1) 会報の定期発行 200通×4回	年4回	—	1	200人	120
	(2) ホームページのリニューアル	随時	—	1	不特定多数	50
	(3) 草原の草から紙を作るプロジェクト(地球環境基金)	7回	阿蘇市内の小学校(5校)その他	2	300人	2,500
	(4) セミナー・シンポジウムの開催(農水省環境バイオマス総合対策推進事業)	2回	九州内	2	200人	1,200
	(5) 環境学習実地体験(農水省環境バイオマス総合対策推進事業)	5回	九州内	2	150人	2,600
	(6) 視察・見学会の受け入れ	随時	阿蘇市南阿蘇村	1	200人	—
	(7) エコデリ九州2008(NEDO新・省エネ普及啓発事業)	10回	九州内	4	2,000人	(未定)
バイオマス利用地域モデル推進事業	(1) 草本系バイオマス利活用システム	年間	阿蘇市	3	不特定多数	22,000
	(2) 野草資源小委員会事務局運営	年4回	阿蘇市	2	17人	150
	(3) 北大実験支援	10月～3月	阿蘇市	2		170

	(4) 阿蘇市バイオマスタウン構想 策定	10月 ～3月	阿蘇市	2	不特定 多数	
	(5) 中部大学 E-ラーニング	11月 ～3月	阿蘇市	2		1,000
交流事業 及び バイオマス 関連製品普 及促進事業	(1) 各種イベント・セミナー等へ の講師の派遣	年5回	全国	2	不特定 多数	100
その他 の事業	(1) 書籍の販売	随時	セミナー会 場等	2	不特定 多数	
	(2) 草の販売	随時	阿蘇郡およ びその周辺 地域	1	不特定 多数	
	(3) 野草紙名刺の販売	随時	全国	1	不特定 多数	

3. 以上を踏まえたうえで、平成20年度の活動及び事業概況並びに収支決算報告をさせていただきます。

(一) 活動経過

〈平成20年度KBF活動日誌〉

- 6月7日 第5期通常総会および第1回理事会開催
- 10日 24時間連続プラント稼動運転試験実施
- 13日 EPO九州環境ミニセミナー講演
- 16日 熊本ECO燃料総会出席
- 22日 第2回理事会開催
- 24日 NEDOコンソーシアム会議出席
- 27日 九州地域エネルギー温暖化対策推進会議
- 28日 野草紙プロジェクト第1回ワークショップ実施(坂梨小学校)  
「小河川の清流を考える集い」講演会講師
- 7月4日 阿蘇市定例会議出席、第3回理事会開催
- 9日 バイオ燃料総合展参加
- 11日 九州地域バイオマス関係機関連絡会議出席
- 15日 新宮牧野出版記念祝賀会出席
- 24日 エコ・アイランド九州委員会出席
- 27日 NEDO情報交換フォーラム・山形出席
- 12日 青少年交流の家で講演
- 21日 NEDOコンソーシアム会議出席
- 25日 熊本県生涯学習講座
- 27日 オペレーター組合第2回通常総会開催
- 28日 草原再生協議会幹事会出席
- 29日 野草資源小委員会開催
- 31日 紙漉きイベント実施
- 9月5日 バイオマス夏の学校出席
- 11日 草原再生協議会 出席
- 12日 南阿蘇バイオマス推進委員会 出席
- 13日 阿蘇高校 講演

- 18日 第1回九州バイオマス発見活用協議会 出席
- 10月 2日 くまもとECO燃料研究会 出席
- 10日 中通小、野草紙ワークショップ 実施
- 15日 坂梨小、野草紙ワークショップ 実施
- 16日 第4回理事会 開催
- 17日 南阿蘇バイオマス推進委員会 出席
- 26日 紙漉き体験@南阿蘇あきまつり 実施
- 11月 4~7 バイオマスタウンアドバイザー養成研修:実地研修@えびの市
- 8日 シンポジウム(大分市内) 講演
- 9日 第5回理事会および第6期臨時総会 開催
- 17日 山田小学校ススキ取り 実施
- 18~19日 NEDO 情報交換フォーラム 出席
- 20日 阿蘇における環境ポータルサイトづくり意見交換会 出席
- 25日 エコアイランド九州委員会 出席
- 27日 野草紙ワークショップ@両併小 実施
- 30日 エコキャラバン@ゆうき農業フェスタ 実施
- 12月 6日 REPW 自然エネルギー学校 講演  
環境NGOと市民の集い出席
- 7日 エコキャラバン@イオン熊本クレア 実施
- 12日 草原再生協議会幹事会 出席
- 13日 エコキャラバン@イオン福岡ルクル 実施
- 14日 エコキャラバン@唐津市役所 実施
- 15~17 シンポジウム・視察ツアー 開催
- 16日 第2回九州バイオマス発見活用協議会 出席
- 20日 エコキャラバン@太宰府天満宮 実施
- 25日 阿蘇市バイオマスタウン構想:日田市 視察
- 1月 13日 くまもとECO燃料研究会 出席
- 17日 REPW 自然エネルギー学校 講演
- 19日 くまもとECO燃料研究会 出席
- 27~28 バイオマスタウンアドバイザー養成研修成果発表会@東京
- 2月 2日 地域の発意@久木野小 実施
- 4日 地域の発意@佐多小 実施
- 6日 地域の発意@山本小 実施
- 7日 バイオマスフォーラム in 佐賀 講演
- 10日 地域の発意@若松小 実施
- 12日 地域の発意@納所小 実施
- 13日 第6回理事会開催
- 16日 地域の発意@坂梨小 実施  
草原再生協議会幹事会 実施
- 17日 竹活用研究会 in 山鹿市 開催
- 18日 地域の発意@吉井小 実施
- 19日 地域の発意@宇佐小 実施  
バイオマスセミナー in 竹田市 開催
- 20日 バイオマスセミナー in 日向市 開催
- 23日 エコアイランド九州策定委員会 出席
- 24日 地球環境基金:卒業証書紙漉き@坂梨小 実施

- 25日 NEDO コンソーシアム会議 出席
- 26日 地球環境基金:卒業証書紙漉き@中通小 実施
- 27日 地球環境基金:紙漉き@山田小 実施
- 3月 2日 地球環境基金:卒業証書紙漉き@山田小 実施
- 4日 草資源小委員会開催、草原再生協議会 出席
- 5日 中部大学 e-ラーニング:シンポジウム@中部大学  
第3回 NEDO 検討委員会 出席
- 12日 第3回九州バイオマス発見活用協議会 出席
- 13日 阿蘇市バイオマスタウン構想委員会 出席
- 16日 九州環境セミナー～拡大版エコ塾 in 熊本～ 出席
- 18日 宮崎県新富町 講演
- 19日 菜の花を愛するくまもとネットワーク会議 出席
- 23日 阿蘇市 ICT 委員会 出席
- 29日 エコキャラバン@天草菜の花祭 実施
- 4月 23日 森と木質活用の CB&SB に関するミーティング 出席  
阿蘇青年会議所 講演
- 27日 NEDO コンソーシアム会議 出席
- 28日 (仮)薪利活用協議会の準備会 開催
- 5月 2日 第7回理事会 開催
- 13日 (仮)薪利活用協議会第2回設立準備委員会 開催
- 23日 第8回理事会 開催
- 6月 12日 くまもと eco 燃料研究会 出席
- 13日 (仮)薪利活用協議会準備会 開催

## 〈平成 20 年度 K B F 事業報告〉

### 広報・啓発事業：

#### ① ホームページのリニューアル

ホームページをリニューアルしたことで、Google でバイオマス関連のキーワードで検索すると KBF のサイトが上位に表示されることが増えてきている。

ただし、ネット経由による会員増加については微増に留まっている。定期的に更新し、情報を発信し続けることで、会員獲得に繋がるものと捉え、さらにコンテンツの充実化を検討している。その一環として、まず、手漉き野草紙名刺を KBF サイトからも購入手続きをできるように考えている。

#### ② 草原の草から紙を作るプロジェクト（地球環境基金）

主に小学生を対象に、阿蘇の草原が減少している現状を知ってもらい、今後も草原として維持していくには、草原を利用することが大切であることを学ぶ目的の環境教育を行う事業。

平成 20 年度は、阿蘇市内の小学校 4 校に対して環境教育および紙漉きワークショップを行った。また、阿蘇市外の小学校などに対しても阿蘇のススキを用いた紙漉き体験ワークショップを 4 件実施した。

#### ③ セミナー・シンポジウムの開催（農水省環境バイオマス総合対策推進事業 他）

環境バイオマス総合対策推進事業の一環として(株) TRES から委託され、2月 19日(竹田市)・20日(日向市)に、バイオマス利活用に関するセミナーを実施した。

また、2月 17日に山鹿市で竹の利活用に関する研究会を実施した。

#### ④ 環境学習実地体験（農水省環境バイオマス総合推進事業）

環境バイオマス総合対策推進事業の一環として（株）TRESからの公募により採択。

事業内容は、小学生を対象として、バイオマスやBDFの利活用の普及啓発を目的とした「BDF体験学習講座」の実施で、子どもたちが持参した廃食用油からBDFを精製し、BDFカートの試乗体験を行った。

12月に実施校を公募により希望校を募集。九州全県から計18校の応募があり、1月に実施校決定（九州各県で概ね1校（熊本県のみ2校の計8校））し、事業実施のための準備を行った

2月2日の久木野小（南阿蘇村）が最初の実施校となり、2月19日の宇佐小（大分県宇佐市）の最後の実施校まで、3週間で8校の小学校で事業を実施した。

本事業実施の様子は、関係市町村の広報や新聞などに多数掲載され、メディアを通じて不特定多数の人々にバイオマスやBDFの利活用について普及啓発を行えた。

#### ⑤ 視察・見学会の受け入れ

九大や京産大、中部大などの研究機関や農水省、環境省などの行政機関からの視察・見学会を受け入れを実施したほか、阿蘇市婦人会などの一般市民からの視察受け入れも実施し、幅広い層にNEDO事業と主とするバイオマスの利活用やKBFの取組みについて広めることができた。

#### ⑥ エコデリ九州2008（NEDO新・省エネ普及啓発事業）

本事業は、NEDOの新エネルギー等非営利促進事業の半額補助を利用して実施した。

H19年度の農水省補助事業「ぐるっと九州エコキャラバン」に引き続き、廃食用油からバイオディーゼル燃料を精製するデモンストレーションを中心とした新エネルギーに関する普及を行い、熊本・福岡・佐賀の3県で計5箇所にて実施し、約1,000人の来場者があった。

デモンストレーションの実施にあたり、合志市にある運送会社「Jーライン(株)」が、自社の環境活動の一環として、ほぼ利益なしでトラック貸出およびBDF精製に関する支援をしてくれた。同社は自社でBDFを精製し、自社のトラックにBDFを使用している。

さらに、デモンストレーション実施の様子と、後述するJORA委託事業による「シンポジウム＋視察ツアー」にTKUが同行取材を行い、不特定多数の幅広い層に対して、新エネルギーについての理解が深められる番組を制作し、年末年始に九州7県にて放送した。また、学校の授業で新エネルギーに関しての学習ができるように、放送内容を45分に再編集してDVDを1000枚制作し、各県の教育委員会などへ配布した。

#### ⑦ JORA委託事業（バイオマスシンポジウムin熊本、バイオマス視察ツアー）

- ・景気後退の影響を受けて、参加者が当初見込みよりも激減。最終の参加者は約30人であった。
- ・広報啓発事業にほとんど予算がない中、JORAから委託を受けることでバイオマスに関するシンポジウムが開催できたことは成果として大きい。
- ・エコデリ九州2008において、BDFのデモンストレーションだけでは番組を構成することは難しかったが、視察ツアーを番組の中で紹介することで、番組も充実させることができた。

#### バイオマス利用地域モデル推進事業：

##### ① NEDO地域システム化実験事業

- ・阿蘇地域の米・稲わらの収穫時期が遅れたため、オペレーターの都合がつかず採草開始が1か月程度遅れた結果、H20年度に採草した量は560tに留まった。
- ・プラントは、草の種類によって燃焼炉のつまりなどが生じており、草の成分分析を行うことで原因を探っている。

- ・保管中に腐敗した草は、堆肥用に処分した。
- ・昨年度から 400 万円委託費が減額され、さらに来年度は 400 万円減額される見込みであることから、現状の草ロールの保管の問題の解決のためにも、増額申請を行った。当初は人件費が認められないとのことであったが、2月10日に申請金額の満額が認められた。
- ・外部保管技術の開発として、太陽工業（株）と保管シートの共同開発を行った。将来は商品化を目指したい。

## ② 野草資源小委員会事務局運営

草原再生協議会のなかの小委員会のひとつである野草資源小委員会の事務局を運営した。当初、環境省から委託費が出る見込みであったが、KBF のボランティアとして実施することとなった。

小委員会は2回開催し、KBF の野草紙プロジェクトや草原再生シール生産者の会のプロジェクトが、草原再生協議会の実施計画として承認を受けた。

## ③ 牧野調査（北大実験支援 他）

北海道大学が、阿蘇の草原で炭素固定量測定の実験を実施するにあたり、牧野との調整などの支援を行ったほか、現地調査の補助やデータ収集代行を実施した。

その他、環境省が発注する阿蘇草原再生野草地環境保全計画検討業務の一部や阿蘇グリーンストックの牧野データの GIS 化といった事業を受託した。

阿蘇草原再生野草地環境保全計画検討業務は、阿蘇郡市にある牧野のうち、4 牧野（湯浦、二塚、小堀、池の窪）について、牧野の自然環境や利用・管理履歴についての情報収集および野草地環境保全計画の策定を実施。KBF は牧野内の地名及びその由来についてのとりまとめを担当した。

## ④ 阿蘇市バイオマスタウン構想策定

阿蘇市のバイオマスタウン構想を策定するため、阿蘇市バイオマスタウン構想策定委員会を編成し、委員会を3回開催した。1月には、阿蘇市バイオマスタウン構想についてのパブリックコメントを募集し、ホームページにタウン構想案を公表した。

阿蘇市バイオマスタウン構想は H21 年度に公表される予定である。

また、合わせて、事務局職員の奈良が、農水省の環境バイオマス総合対策推進事業の一環として JORA が主催する人材育成プログラム「バイオマスタウンアドバイザー養成研修」を受講し、「バイオマスタウンアドバイザー」として認定された。

## ⑤ 中部大学 e ラーニング

中部大学が実施している環境人材育成プログラムの一環として、GIS を用いて実施している NEDO 事業を主とした KBF の取組みを人材育成用の教材（コンテンツ）として開発・提供した。

3月5日には中部大学主催のシンポジウムに参加し、シンポジウム参加者に KBF の取組みを知ってもらう機会を得た。



## 交流及び製品普及事業：

### ① 講師派遣

米のバイオマスプラチックを手掛けるバイオマステクノロジー社、日立ハイテクノロジーズが熊本に工場進出の可能性を探るために、KBF に相談にきたため、阿蘇市農政課や熊本県との間を取り持つなどのコンサルティングを行った。その結果、阿蘇市で米のバイオマスプラチック事業の具現化がみえてきた。

そのほか、「小河川の清流を考える集い」といった講演会や、阿蘇高校、自然エネルギー学校などで多くの講演を実施した。

### ② その他の事業

#### ● 書籍販売

JORA 委託事業におけるシンポジウムや竹田市や日向市で実施したセミナーの各会場で、バイオマスに関する書籍の販売を実施した。

#### ● 名刺販売

草原保全のための手漉き野草紙名刺事業で、原料の一部に阿蘇のススキを用いた名刺の製品化を行った。現在、3,000 円@100 枚（税込）で販売している。

#### ● 草販売

H20 年度は、草そのものの販売実績はなく、茅葺職人から茅刈り補助の依頼があり、本事業の一部として実施した。

## (二) 活動概況および総括

- (1) 平成 20 年度は、人員を拡充したものの、農水省事業の不採択により、臨時総会にて事業計画および事業予算を大幅に変更し、新たに多数の事業を実施してきました。その結果、農水省事業不採択により約 3 千万円減額となった事業予算のうち、約 2 千万円までは回復することができました。
- (2) 平成 20 年度に実施した事業のうち、エコデリ九州 2008、環境学習実地体験（地域の発意）、バイオマスシンポジウム in 熊本、竹活用研究会などの事業は、自治体、企業、主婦、小学生など幅広い層にバイオマスの利活用に関する普及啓発活動が実施できました。特に、エコデリ九州 2008 や環境学習実施体験では、TV 放送の実施や新聞などに多数掲載されるなど、メディアでの露出度も多かったです。しかし、普及啓発活動実施後の効果については不明で、各地域に根ざした活動に発展するような仕組みづくりや仕掛け方ができませんでした。
- (3) 一方、阿蘇市で実施している草本系バイオマス利活用システムの事業化に向けた取組みについて、コンソーシアム会議などから出たロールの水分・異物の課題や、保管に関する課題等については精力的に解決に向けて取り組んできました。平成 22 年度の自立に向けての取組み・検討はまだ不十分ですが、阿蘇市バイオマスタウン構想の策定に携わることで、草資源流通センターの事業化に向けての基礎を築くことができました。
- (4) 会員の拡大について、団体会員は微増したものの、個人会員については伸び悩んでおり、これには、会員が参加できる活動・仕組づくりができていないことに起因すると思われます。
- (5) また、未だ補助金などに大きく依存しているため、事業不採択により事業計画が揺らぐなど、財政基盤としては脆弱なままですが、自主事業として野草紙名刺の販売事業をスタートすることができました。

### (三) 事業概況

平成20年度の事業概況としては、下記の通りとなっています。

(1) 特定非営利活動に係る事業(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人	支出額(千円)	予算額(千円)	増減(千円)	備考
広報・啓発事業	会報の定期発行	1回	—	1	100人	14	120	-106	会報の発行が1回に留まった。
	ホームページのリニューアル	随時	—	1	不特定多数	126	50	76	
	草原の草から紙を作るプロジェクト(地球環境基金)	6月～3月(9回)	阿蘇市内の小学校(3校)その他	2	300人	2,550	2,500	50	
	セミナー・シンポジウムの開催(農水省環境バイオマス総合対策推進事業)	2月(3回)	九州内	2	230人	379	1,200	-821	ボランティアの活用などによりコスト削減に努めた。
	環境学習実地体験(農水省環境バイオマス総合対策推進事業)	2月(8回)	九州内	4	212人	2,629	2,600	29	
	視察・見学会の受け入れ	随時	阿蘇市	4	10件	—	—	—	
	エコデリ九州2008(NEDO新・省エネ普及啓発事業)	11月～12月(5回)	九州内	3	不特定多数	10,536	(未定)	—	事業支出のうち、TV番組制作および番組放送にかかる委託費が大部分を占める。
	JORA委託事業	12月	九州内	2	50人	3,222	—	—	バイオマスシンポジウムin熊本、視察ツアーを共催した。
バイオマス利用地域モデル推進事業	草本系バイオマス利活用システム	通年	阿蘇市	3	不特定多数	26,410	22,000	4,410	外部保管シート開発等で委託費が増額した。
	野草資源小委員会事務局運営	年2回	阿蘇市	1	17人	28	150	-122	環境省で委託費を予算化できなかった。
	牧野調査(北大実験支援 他)	10月～3月	阿蘇市	3	不特定多数	417	170	247	北大実験支援以外にも牧野に関する複数の調査を受託した
	阿蘇市バイオマスタウン構想策定	10月～3月	阿蘇市	2	不特定多数	421	—	—	
交流事業及びバイオマス関連製品普及促	各種イベント・セミナー等への講師の派遣	15回	九州内	1	不特定多数	296	100	196	年5回の計画から実施回数が増えたため。
中部大学E-ラーニング	11月～3月	阿蘇市	2	不特定多数	992	1,000	-8		

(2) その他の事業(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	支出額(千円)	予算額(千円)	増減(千円)
バイオマスに関する書籍等の販売	書籍の販売	随時	セミナー会場など	2	64	—	—
バイオマス関連製品の販売	草の販売	随時	阿蘇市	1	99	—	—
	野草紙名刺の販売	随時	全国	1	58	—	—

# 平成20年度の収支計算書

平成20年度特定非営利活動および収益事業に係る会計収支計算書  
平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

特定非営利活動法人九州バイオマスフォーラム

科目(非営利)	予算	決算	増減	備考
経常収入の部				
1 会費収入	660,000	663,000	3,000	
個人正会員(12,000円)	240,000	204,000	-36,000	
団体正会員(24,000円)	240,000	360,000	120,000	
個人賛助会員(3,000円)	60,000	39,000	-21,000	
団体賛助会員(20,000円)	120,000	60,000	-60,000	
2 寄付金収入	300,000	794,497	494,497	「エコテリ九州2008」実施の際、一般企業や会員に寄付を呼びかけた
3 事業収入	33,461,800	43,932,684	10,470,884	
広報啓発事業	4,000,000	9,815,360	5,815,360	
地域モデル推進事業	29,011,800	33,587,825	4,576,025	「草本系バイオマス利活用システム」で、委託費の増額変更があった
交流及び製品普及事業	450,000	529,499	79,499	
4 その他の事業会計からの繰り入れ	-87,000	-87,956	-956	
5 補助金等収入	6,300,000	7,390,448	1,090,448	
6 受取利息収入	0	13,965	13,965	
7 雑収入	10,000	606,913	596,913	GSと業務実施内容の実態に合わせて清算を行った
経常収入合計(A)	40,644,800	53,313,551	12,668,751	
II 経常支出の部				
1 事業費	33,873,000	48,014,105	14,141,105	
広報啓発事業費	9,823,000	19,445,603	9,622,603	実施事業が多岐に渡ったため
地域モデル事業費	23,950,000	28,271,697	4,321,697	「草本系バイオマス利活用システム」で、外部保管シートの開発等を実施したため
交流及び製品普及事業	100,000	296,805	196,805	
2 管理費	6,617,000	3,625,334	-2,991,666	
役員報酬	0	0	0	
給料手当	2,330,000	767,210	-1,562,790	実施事業が多岐に渡ったため、各事業の事業費として振り分けた
法定福利費	-	292,252	292,252	
福利厚生費	60,000	73,831	13,831	
通信運搬費	300,000	80,685	-219,315	実施事業が多岐に渡ったため、各事業の事業費として振り分けた
光熱水費	20,000	25,273	5,273	
旅費交通費	400,000	187,960	-212,040	実施事業が多岐に渡ったため、各事業の事業費として振り分けた
渉外費	40,000	16,321	-23,679	
会議費	50,000	41,669	-8,331	
消耗品費	300,000	84,410	-215,590	実施事業が多岐に渡ったため、各事業の事業費として振り分けた
什器備品費	150,000	0	-150,000	該当科目での支出がなかった
図書資料費	0	39,070	39,070	
印刷製本費	20,000	65,139	45,139	
修繕費	-	17,430	17,430	
賃借料	200,000	349,201	149,201	
業務委託費	850,000	105,000	-745,000	
車両費	-	14,133	14,133	
車両燃料費	-	25,994	25,994	
保険料	120,000	10,579	-109,421	
租税公課	730,000	993,578	263,578	H20年度は消費税課税事業者となった
諸会費	-	32,000	32,000	
減価償却費	520,000	280,549	-239,451	
支払利息	447,000	0	-447,000	事業実施のための借入に対する利息であるため、各事業の事業費として振り分けた
雑損	-	39,000	39,000	
雑費	80,000	84,050	4,050	
予備費	0	0	0	
経常支出合計(B)	40,490,000	51,639,439	11,149,439	
当期収支差額(A)-(B)	154,800	1,674,112	1,519,312	
前期からの繰越(C)	670,883	670,883		
次期繰越収支差額	825,683	2,344,995	1,519,312	

科目(営利)	予算	決算	増減	備考
I 収入の部				
1 売上高				
書籍等販売売上	100,000	74,200	-25,800	
草資源販売売上	-	12,000	12,000	
名刺販売売上	-	48,460	48,460	
受託事業	0	0	0	
収入合計	100,000	134,660	34,660	
II 支出の部				
1 売上原価				
書籍仕入高	30,000	20,670	-9,330	
草資源仕入高	0	0	0	
書籍仕入戻高	0	0	0	
2 販売・管理費				
給料手当	-	104,494	104,494	
福利厚生費	0	0	0	
通信運搬費	2,000	400	-1,600	
光熱水費	-	16,151	16,151	
旅費交通費	0	1,833	1,833	
広告宣伝費	-	9,765	9,765	
渉外費	0	0	0	
会議費	0	0	0	
消耗品費	5,000	53,970	48,970	
什器備品費	0	0	0	
図書資料費	-	120	120	
修繕費	0	0	0	
賃借料	-	4,298	4,298	
業務委託費	-	8,800	8,800	
外注費	0	0	0	
リース料	150,000	0	-150,000	
借地料	0	0	0	該当科目での支出がなかった
保険料	0	0	0	
燃料費	0	0	0	
臨時雇用費	0	0	0	
雑費	-	2,115	2,115	
予備費	0	0	0	
支出合計	187,000	222,616	90,460	
収支差額	-87,000	-87,956	-956	
非営利勘定へ	-87,000	-87,956	-956	
次期繰越	0	0	0	

平成 20 年度事業費内訳

収入	内訳	事業費 予算	事業費 決算	増減	備考
広報啓発事業	シンポジウム・見学会の開催(JORA委託事業)	4,000,000	6,193,600	2,193,600	
	農水省 環境バイオマス総合対策事業(「地域の発意」)	-	2,870,000	2,870,000	農水省の補助事業を再委託として受託したため。
	エコデリ九州2008(委託費等)	-	117,860	117,860	
	セミナー・シンポジウムの開催委託費	-	633,900	633,900	農水省の補助事業を再委託として受託したため。
地域モデル	NEDO バイオマスエネルギー地域システム化実験事業	26,791,800	30,475,200	3,683,400	野外保管シート開発等の申請により増額になった。
	阿蘇市バイオマスタウン構想	500,000	499,800	-200	
	環境省 草資源小委員会	250,000	0	-250,000	環境省で予算化できなかったため。
	牧野調査(北海道大学 ススキ実験委託業務など)	270,000	932,825	662,825	
	環境教育e-ラーニングシステム開発	1,200,000	1,680,000	480,000	
補助金等収入	農水省 環境バイオマス総合対策事業	3,800,000	0	-3,800,000	農水省の補助事業を直接受託できなかったため。
	地球環境基金	2,500,000	2,500,000	0	
	NEDO 新エネルギー等非常活動促進事業(エコデリ九州2008)	-	4,890,448	4,890,448	BDFデモンストレーション実施とTV番組制作のため、1/2補助の補助事業を活用した
交流及び製品 普及事業	各種イベントセミナー等への講師派遣 (旅費・謝金収入)	450,000	529,499	79,499	
事業収入合計		39,761,800	51,323,132	11,561,332	

支出	内訳	事業費 予算	事業費 決算	増減	備考
広報啓発事業	会報の定期発行	20,000	0	-20,000	
	ホームページのリニューアル	3,000	126,856	123,856	
	農水省 環境バイオマス総合対策事業(「地域の発意」)	3,800,000	2,629,744	-1,170,256	農水省の補助事業を直接受託できず、再委託となったため、事業費を委託費内で抑えるよう努めた。
	野草紙プロジェクト	2,300,000	2,550,299	250,299	
	シンポジウム・見学ツアーの開催(JORA委託事業)	3,700,000	3,222,712	-477,288	見学ツアーの段取りを旅行代理店に依頼する等で事業費を抑えた。
	エコデリ九州2008	-	10,536,578	10,536,578	事業費のほとんどは、TV番組制作および放送委託費となっている。
地域モデル	セミナー・シンポジウムの開催	-	379,414	379,414	
	草本系バイオマス活用システム	22,000,000	26,410,632	4,410,632	野外保管シートの開発委託費等で事業費が増加した。
	ストローベイルハウス建設事業	0	0	0	
	阿蘇市バイオマスタウン構想	500,000	421,968	-78,032	
	野草資源小委員会事務局	250,000	28,788	-221,212	環境省で予算化できなかったため。
交流及び製品 普及事業	環境教育e-ラーニングシステム開発	1,200,000	992,943	-207,057	
	牧野調査(北海道大学 ススキ実験委託業務など)	-	417,366	417,366	
	各種イベントセミナー等への講師派遣 (旅費支出)	100,000	296,805	196,805	
事業支出合計		33,873,000	48,014,105	14,141,105	

〈監査報告〉

別紙監査報告書をご覧ください。

内容については宮本監事よりご報告いただきます。

## 第二号議案 平成 21 年度事業計画及び収支予算案決定の件

### 1. 全体方針

平成 21 年度は、下記の項目を重点課題として進めていきたいと考えています。

- ・阿蘇市で実施している草本系バイオマス利活用システムの来年度の事業化を見据えた調査・研究開発を進め、草資源流通センターの具現化に向けて、事業検討や組織作りを実施し、阿蘇での地域モデル推進のための基盤を築きます。
- ・また、野草紙名刺販売事業の事業強化や薪事業などをはじめとして、いくつかの事業モデルを形成・実践することで、経営基盤の安定化を目指すとともに、その活動の広報を通じて、循環型社会へ向けた普及啓発活動を行います。
- ・さらに、会員拡大と会員参加型の仕組みづくりを目的とした、ツアーやセミナーの開催や、ワークショップを行います。

### 2. 広報啓発事業

#### (1) 草原の草から紙を作るプロジェクト（地球環境基金）

平成 19 年度から、草から紙を作る体験型学習プログラムを実施しています。草原の現状や問題について、参加者へ理解を促し、①草原の良さ理解者を増やすこと、②将来的な草原の担い手を育成することを目的として取組みます。

平成 21 年度は、地球環境基金の最終年度のため、平成 19・20 年度のまとめとなる活動を含めて展開していきます。活動として、

- ① 阿蘇地域での小学校で草原学習のワークショップを開催します。
- ② 阿蘇地域でグリーンツーリズムを推進している団体と連携して、阿蘇ならではの草原学習を他地域の生徒にも実施します。
- ③ 最終年度のまとめとして、学校の先生やグリーンツーリズムを推進している団体を対象として、草原学習の指導者育成研修会を開催し、阿蘇地域で草原学習が定着することに努めます。

#### (2) 竹活用研究会の開催

現在、九州各地で問題となっている竹林の拡大や、管理放棄された竹林の利活用を目的とした研究会を九州各地で開催し、健全な竹林の育成と竹利活用による新たな産業の創出を目指します。

#### (3) メタン発酵に関する研修会の開催

九州は、メタン発酵の先進地といわれており、液肥利用などについては多くの事例があります。KBF としても、そうした身近な優良事例をまとめてノウハウを蓄積し、将来的にごく小規模モデルとして、メタン発酵設備の実践利用を検討したいと考えています。その準備段階として、既存のメタン発酵施設への視察など、メタン発酵に関する研修会を開催します。

#### (4) バイオマス利活用意向調査事業

九州各県において、バイオマスに関する地域説明会を実施し、バイオマス利活用の意向調査を行います。

#### (5) エコキャラバンの開催

南阿蘇村や阿蘇市を中心とする阿蘇郡市やその周辺において、バイオディーゼル燃料（BDF）の精製実演および BDF カートの試乗体験、バイオマスの利活用に関する普及啓発活動を実施します。また、BDF

精製機の貸出なども検討しています。

#### (6) 菜の花プロジェクト推進

「菜の花を愛するくまもとネットワーク」の21年度の事務局運営を引き受け、熊本県内で菜の花プロジェクトを精力的に取り組んでいる所へ視察ツアーと情報交換会を実施します。また、バイオマスタウン構想の策定に取り組んだ南阿蘇村と菜の花プロジェクトやBDF事業の具現化を目指します。

#### (7) ストローベイルハウスワークショップ

平成17年度に南阿蘇村内に建設したストローベイルハウスは、有効活用できずに現在に至っており、補修などのメンテナンスが必要となっています。しかし、その予算についても目途がつかないことから、助成金等（富士フィルム・グリーンファンド・トヨタ環境活動助成プログラム）に申請し、採択が決まった段階で、ワークショップ形式で修繕・コンポストトイレの設置などを実施します。

整備後は、バイオマスの広報啓発活動の拠点として活用したいと考えております。具体的案としては、以下の通りです。

- ・ ストローベイルハウスや野草を用いた紙すきなどの活動紹介のパネルなどを展示し、草を使うことの大切さをアピールする。
- ・ 紙漉きなどの体験活動の場として利用する。

### 3. 地域モデル推進事業

#### (1) NEDO バイオマスエネルギー地域システム化実験事業

九州バイオマスフォーラムは、草本系バイオマスのエネルギー化実験事業では、草の収集運搬を担当しております。H21年度は、事業最終年度にあたり、事業のとりまとめを行うとともに、H22年度からの自立化に向けて阿蘇市と協議を進める必要があります。

当面は、保管用シートの耐久性試験、草資源流通センター構想に向けての体制の具体的検討、事業の評価項目の整理、灰の商品化などを進めていく予定です。保管用シートの開発については、太陽工業と連携し、NEDO事業などに申請することで、市場性調査や保管シートの改良などを進めていく予定です。

#### (2) 野草灰の販売可能性調査

現在、NEDO事業のプラントから出る野草灰の利活用として、野草灰販売事業を検討しております。その事業化に向けて、野草灰の成分分析や市場調査、試供品提供による商品開発検討などを実施する予定です。

#### (3) 薪利活用協議会

(仮称)薪利活用協議会を作り、ユーザ、薪ストーブ販売者、薪供給者などのネットワークを形成し、CO2削減を目的とした薪ストーブユーザの拡大を目指します。また、薪ストーブ設置／利用に関する安全講習会を実施します。具体的な事業計画・予算については、薪利活用協議会の運営委員会を組織し、その中で具体化を図っていきたいと考えております。

#### (4) 野草資源小委員会事務局運営

環境省の草原再生協議会の中にある小委員会を引き続き運営します。この小委員会で野草資源流通センター構想の具体化を検討していきます。

(5) バイオマスプラスチック普及事業

阿蘇市のバイオスタウン構想では、阿蘇市内の転作田で資源米を作付し、米のプラスチックの原料を生産する構想が進められています。KBF では、バイオマスプラスチックの普及活動の一環として、阿蘇地域での資源米を活用した新たなバイオマス利用モデルの構築のために、農商工連携事業等を活用しながら、JA 阿蘇・阿蘇市・プラスチック成型メーカー等と連携し、事業化の支援を行う予定です。

(6) 牧野調査（北大委託事業等）

H20 年度に引き続き、北海道大学が行う草原の炭素固定量把握調査の現地調査の一部を担当するほか、牧野カルテの充実化や GIS 化などを実施します。

(7) 環境教育 E-ラーニングシステムの開発

H20 年度に引き続き、中部大学と共同で GIS を用いた環境教育 E-ラーニングシステムの開発を実施します。また、阿蘇市が実施する E-ラーニング事業とも連携を図り、情報の共有化や事業拡大を目指します。

#### 4. 交流及び製品普及事業（講師派遣を含む）

(1) 講師派遣事業

平成 21 年 6 月現在で、下記のセミナー、委員会等の講師派遣が実施／予定されています。

- ・ 阿蘇青年会議所 講演（4 月 23 日、阿蘇市）
- ・ 地球温暖化の中期目標に関する意見交換会（5 月 12 日、福岡）
- ・ バイオマス利用研究会 講演（7 月 16 日、京都）

#### 5. その他の事業

(1) 書籍販売

バイオマスに関連する書籍をセミナー・シンポジウム会場で販売することで、KBF の運営資金に充てる予定です。

(2) 草の販売

飼料用に採草したが、ラップが破れたり腐ったりして使えなくなったものをエネルギー用に買い取ってもらえないかという相談が農家からあります。そうした草などについては、いったん買い取ったうえで、堆肥を必要としている農家に販売します。

(3) 野草紙製品の販売

平成 20 年度は野草紙名刺の販売が始まりましたが、販売ルート開拓、広告宣伝など営業面で不慣れな点が多々ありました。平成 21 年度は、野草紙名刺の販売の事業安定化を図るとともに、名刺以外にも野草紙マテリアルを開発・販売していきます（名刺 100 枚 3,000 円、A4 野草紙 1 枚 260 円）。

(4) 薪の生産・販売

阿蘇市の緊急雇用対策事業を利用して 5 人を雇用し、薪を生産する新たな事業をスタートさせます。生産した薪は、阿蘇市や熊本市内の公共施設や薪ストーブユーザに販売していきます。油圧薪割り機などの生産にあたって必要な機材は、林野庁の補助事業等（山村再生プラン）を活用していきたいと考えています。

## 6. 事業計画

定款の 事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事 者の 人数	受益対象 者の範囲 及び人数	支出額 (千円)
広報・啓発 事業	(1) 会報の定期発行 200 通×4 回	年 4 回	—	1	200	20
	(2) ホームページによる情報発信	随時	—	1	不特定 多数	10
	(3) 視察・見学会の受け入れ	随時	阿蘇市 南阿蘇村	2	200 人	—
	(4) 草原の草から紙を作るプロジェクト (地球環境基金)	年 8 回	阿蘇市内の 小学校 (8 校)	2	300 人	2,300
	(5) 竹活用研究会の開催	年 3 回	九州	2	不特定 多数	100
	(6) メタン発酵勉強会の開催	1～2 回	九州	1	不特定 多数	100
	(7) バイオマス利活用意向調査事業	7 回	九州	2	不特定 多数	3,600
	(8) エコキャラバンの開催	1～2 回	阿蘇郡市	2	100 人	200
	(9) 菜の花プロジェクトの推進	1～2 回	熊本県	2	不特定 多数	100
	(10) ストローバイルハウスワークショ ップの開催 ※	1～2 回	南阿蘇村	1	不特定 多数	2,000
バイオマス 利用地域 モデル推進 事業	(1) 草本系バイオマス利活用システム	通年	阿蘇市	3	不特定 多数	19,000
	(2) 野草灰の販売可能性調査	通年	阿蘇市	2	不特定 多数	50
	(3) 薪利活用協議会	通年	阿蘇郡 およびその 周辺地域	2	不特定 多数	100
	(4) 野草資源小委員会事務局運営	年 4 回	阿蘇市	1	17	100
	(5) バイオマスプラスチック推進事業	通年	阿蘇市	2	不特定 多数	2,700
	(6) 牧野調査 (北大委託事業等)	通年	阿蘇市	2	不特定 多数	935
	(7) 環境教育 E-ラーニングシステムの 開発	通年	阿蘇市	2	不特定 多数	800
交流事業バ イオマス関 連製品普及 促進事業	(1) 各種イベント・セミナー等への講 師の派遣	通年	全国	1	不特定 多数	200
その他の 事業	(1) 書籍の販売	随時	セミナー会 場等	2	不特定 多数	100
	(2) 草の販売	随時	阿蘇郡 およびその 周辺地域	1	不特定 多数	100
	(3) 野草紙製品の販売	随時	全国	1	不特定 多数	720
	(4) 薪の生産・販売	6～3 月	阿蘇郡およ び熊本市	1	不特定 多数	3,880

※ストローバイルハウスワークショップの開催については、申請中の助成事業が採択の場合、実施する。



7. 事業予算

平成21年度特定非営利活動および収益事業に係る会計収支計算書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

特定非営利活動法人九州バイオマスフォーラム

平成21年度事業費内訳

科目(非営利)	前年度決算	予算	差額
経常収入の部			
1 会費収入	663,000	663,000	0
個人正会員(12,000円)	204,000	204,000	0
団体正会員(24,000円)	360,000	360,000	0
個人賛助会員(3,000円)	39,000	39,000	0
団体賛助会員(20,000円)	60,000	60,000	0
2 寄付金収入	794,497	100,000	-694,497
3 事業収入	43,932,684	33,650,000	-10,282,684
広報啓発事業	9,815,360	4,200,000	-5,615,360
地域モデル推進事業	33,587,825	29,000,000	-4,587,825
交流及び製品普及事業	529,499	450,000	-79,499
4 その他の事業会計からの繰り入れ	-87,956	22,600	110,556
5 補助金等収入	7,390,448	4,500,000	-2,890,448
6 受取利息収入	13,965	0	-13,965
7 雑収入	606,913	10,000	-596,913
経常収入合計(A)	53,313,551	38,945,600	-14,367,951
II 経常支出の部			
1. 事業費	48,014,105	32,315,000	-15,699,105
広報啓発事業費	19,445,607	8,430,000	-11,015,607
地域モデル事業費	28,271,693	23,685,000	-4,586,693
交流及び製品普及事業	296,805	200,000	-96,805
2 管理費	3,625,334	6,195,000	2,569,666
役員報酬	0	0	0
給料手当	767,210	1,200,000	432,790
法定福利費	292,252	300,000	7,748
福利厚生費	73,831	120,000	46,169
通信運搬費	80,685	300,000	219,315
光熱水費	25,273	80,000	54,727
旅費交通費	187,960	450,000	262,040
渉外費	16,321	120,000	103,679
会議費	41,669	60,000	18,331
消耗品費	84,410	500,000	415,590
什器備品費	0	150,000	150,000
図書資料費	39,070	40,000	930
印刷製本費	65,139	65,000	-139
修繕費	17,430	20,000	2,570
賃借料	349,201	350,000	799
業務委託費	105,000	105,000	0
車両費	14,133	200,000	185,867
車両燃料費	25,994	120,000	94,006
保険料	10,579	70,000	59,421
租税公課	993,578	900,000	-93,578
諸会費	32,000	35,000	3,000
減価償却費	280,549	280,000	-549
支払利息	0	450,000	450,000
雑損	39,000	0	-39,000
雑費	84,050	80,000	-4,050
予備費	0	200,000	200,000
経常支出合計(B)	51,639,439	38,510,000	-13,129,439
当期収支差額(A)-(B)	1,674,112	435,600	-1,238,512
前期からの繰越(C)	670,883	2,344,995	
次期繰越額	2,344,995	2,780,595	

科目(営利)	前年度決算	予算	差額
I 収入の部			
1. 売上高			
書籍等販売売上	74,200	100,000	25,800
草資源販売売上	12,000	100,000	88,000
野草紙販売売上	48,460	720,000	671,540
薪販売売上	-	3,800,000	3,800,000
受託事業	-	4,296,600	4,296,600
収入合計	134,660	9,016,600	8,881,940
II 支出の部			
1. 売上原価			
書籍仕入高	20,670	80,000	59,330
草資源仕入高	0	0	0
野草紙材料仕入高	0	150,000	150,000
書籍仕入戻高	0	0	0
2. 販売・管理費			
給料手当	104,494	5,000,000	4,895,506
法定福利費	0	600,000	600,000
福利厚生費	0	0	0
通信運搬費	400	100,000	99,600
光熱水費	16,151	220,000	203,849
旅費交通費	1,833	50,000	48,167
広告宣伝費	9,765	50,000	40,235
渉外費	0	30,000	30,000
会議費	0	30,000	30,000
消耗品費	53,970	400,000	346,030
什器備品費	0	1,200,000	1,200,000
図書資料費	120	10,000	9,880
修繕費	0	0	0
賃借料	4,298	700,000	695,702
業務委託費	8,800	200,000	191,200
保険料	0	24,000	24,000
研修費	0	50,000	50,000
雑費	2,115	100,000	97,885
予備費	0	0	0
支出合計	222,616	8,994,000	8,771,384
収支差額	-87,956	22,600	110,556
非営利勘定へ	-87,956	22,600	

※阿蘇市緊急雇用対策事業

収入	内訳	事業費予算
広報啓発事業	バイオマス利活用意向調査事業 エコキャラバン開催事業	4,000,000 200,000
地域モデル	NEDO バイオマスエネルギー地域システム化実験事業 バイオマスプラスチック推進事業 草原調査(北海道大学ススキ実験委託業務など) 環境教育e-ラーニングシステム開発	22,000,000 3,000,000 3,000,000 1,000,000
交流及び製品普及事業	各種イベントセミナー等への講師派遣 (旅費・謝金収入)	450,000
補助金等収入	地球環境基金 ストローペイルハウスワークショップ事業	2,500,000 2,000,000
	事業収入合計	38,150,000

支出	内訳	事業費予算
広報啓発事業	会報の定期発行 ホームページ更新 草原の草から紙を作るプロジェクト 竹活用研究会の開催 メタン発酵勉強会の開催 バイオマス利活用意向調査 エコキャラバン開催 菜の花プロジェクト推進 ストローペイルハウスワークショップ	20,000 10,000 2,300,000 100,000 100,000 3,600,000 200,000 100,000 2,000,000
地域モデル	草本系バイオマス利活用システム 野草灰の販売可能性調査 薪利活用協議会 野草資源小委員会事務局運営 バイオマスプラスチック推進事業 草原調査(北海道大学ススキ実験委託業務など) 環境教育e-ラーニングシステム開発	19,000,000 50,000 100,000 100,000 2,700,000 2,000,000 800,000
交流及び製品普及事業	各種イベントセミナー等への講師派遣 (旅費支出)	200,000
	事業支出合計	33,380,000

### 第三号議案 借入金最高限度額決定の件

#### 1. 事業規模

今年度の事業費の合計は、事業予算案にあるとおり、約 4,700 万円を予定しております。NPO 法人は、株式会社や財団法人のように資本金や基本財産を持たないため、運転資金は銀行からの借りに頼らざるをえません。

#### 2. 借入限度額

事業費のうち、NEDO 事業・地球環境基金は、年に数回の概算払い・精算払いが予定されています。従って、銀行からの借入金最高限度額は、事業規模の約半分である 2,300 万円をご承認いただきたいと思います。